

イーストスプリング・ ジャパン中小型厳選 バリューストックファンド

追加型投信／国内／株式

第3期(決算日 2017年7月27日)

作成対象期間(2016年7月28日～2017年7月27日)

第3期末(2017年7月27日)	
基準価額	15,582円
純資産総額	7,430百万円
(2016年7月28日～2017年7月27日)	
騰落率	39.6%
分配金合計	0円

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング・ジャパン中小型厳選バリューストックファンド」は、上記の決算を行いました。当ファンドは、主としてわが国の金融商品取引所に上場されている(上場予定を含みます。)中小型株に実質的に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指した運用を行います。

当期につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記[お問い合わせ先]ホームページアドレスにアクセス⇒上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を選択

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

【お問い合わせ先】

電話番号:03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

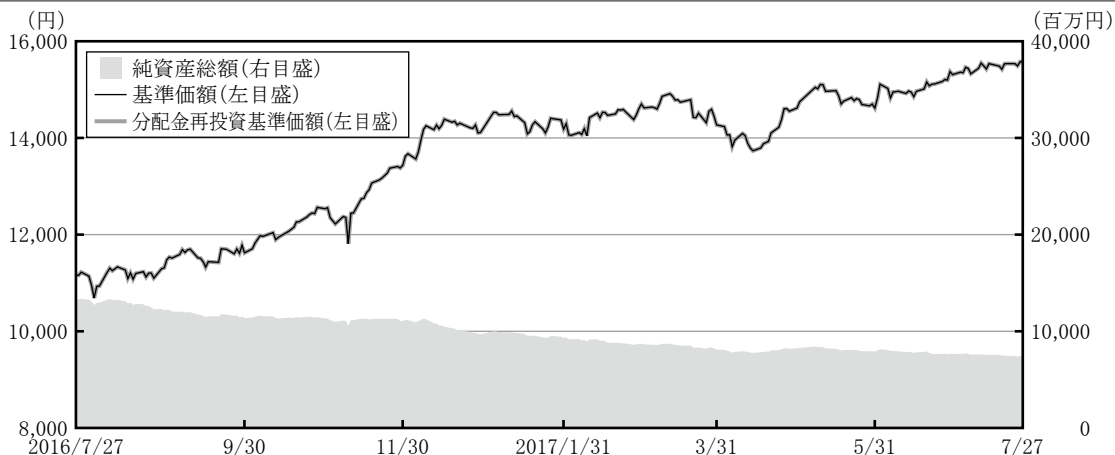
ホームページアドレス: <http://www.eastspring.co.jp/>

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

基準価額等の推移について(第3期:2016年7月28日から2017年7月27日まで)



第3期首	11,160円
第3期末	15,582円(既払分配金0円)
騰落率	39.6%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

上昇要因



・日本株式市場が上昇したこと。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2016/7/28 ～2017/7/27		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	255円	1.890%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、13,483円です。
(投信会社)	(131)	(0.972)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(116)	(0.864)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	23	0.167	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	(23)	(0.167)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用	3	0.024	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(2)	(0.013)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(1)	(0.011)	目論見書及び運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	(0)	(0.000)	余資運用に係る費用(マイナス金利相当額)
合計	281	2.081	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

決算日	2014/8/8 設定日	2015/7/27	2016/7/27	2017/7/27
基準価額 (円)	10,000	12,821	11,160	15,582
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	28.2	△13.0	39.6
純資産総額 (百万円)	3,048	26,494	13,337	7,430

(注) 設定日の基準価額は設定時の価額を、設定日の純資産総額は設定元本を記載しております。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

○国内株式市況

日本株式市場は、2016年10月から年末にかけて大きく上昇しました。特に11月の米国大統領選挙でトランプ候補の勝利が確定すると米国の財政支出拡大や大型減税期待から米国株は上昇し、米ドル高円安が進んだことから日本株式市場も上昇しました。また12月に開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 参加者による経済予測で2017年の米国利上げペースが市場予想を上回ったことを受けて、一段と米ドル高円安が進んだことも株式市場にとって好材料となりました。2017年1月から4月はトランプ大統領が行き過ぎた米ドル高に対し懸念を表明したことや、トランプ政権が掲げた政策の実行に対する不透明感が強まったことなどから円高米ドル安となり、株式市場は上値の重い展開となりました。5月以降は財務省発表の法人企業統計で設備投資の伸びが確認されたことや、さらに高値を抜く米国株式市場などにも後押しされ、株式市場は上昇して期末を迎えました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

当ファンドは、イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本の中小型株に投資を行いました。

○イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド

主として日本の中小型株に投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指しました。

当期中の投資行動は、株価の変動による割安度の変化などを考慮して、商船三井や栗田工業などの組入れを引き上げ、また、日立造船やリコーリースなどを新たに組み入れました。一方で、住友不動産販売やアドバンテストなどを全売却しました。

パフォーマンスについては、東芝テックやロームの保有がプラスに貢献しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (1万口当たり、税引前)

項目	第3期	
	2016年7月28日 ～2017年7月27日	
当期分配金	(円)	—
(対基準価額比率)	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	5,582

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2)当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3)一印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○当ファンド

引き続きイーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券を高位に組み入れることにより、信託財産の成長を図ることを目指します。

○イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド

マザーファンドのアプローチでは、テーマに基づく市場の選好を追いかけることはせず、割安に放置された銘柄の中から、バリュエーションに基づく投資機会を見い出します。運用担当者が市場に反した行動をとる場合は、個別企業の収益トレンドを熟知したうえで、短期のニュースに反応する市場においてその変動によって生じた投資機会を活用することが重要だと考えます。

話題性のあるマクロ経済等のニュースに市場の関心が短期的に集中することにより株価が大きく変動し、結果として魅力的な投資機会がもたらされることがあります。実際の市場においても魅力的な水準のまま放置された銘柄が存在しています。

多くの日本企業では、現金保有比率が高まるなど財務内容に改善が見られます。マイナス金利下では、経営陣は株主の観点に立った資本効率の向上を図る必要があると考えられ、そのような改善努力が日本株式市場の長期的な見通しの再評価につながると思っています。

マザーファンドは個別銘柄の選択に集中し、業種配分は行わないものの、機械、不動産、小売、金融などに加えて、自動車部品、ハイテク関連、特殊素材といったより景気に敏感な業種においても、投資候補銘柄を見い出しています。

お知らせ

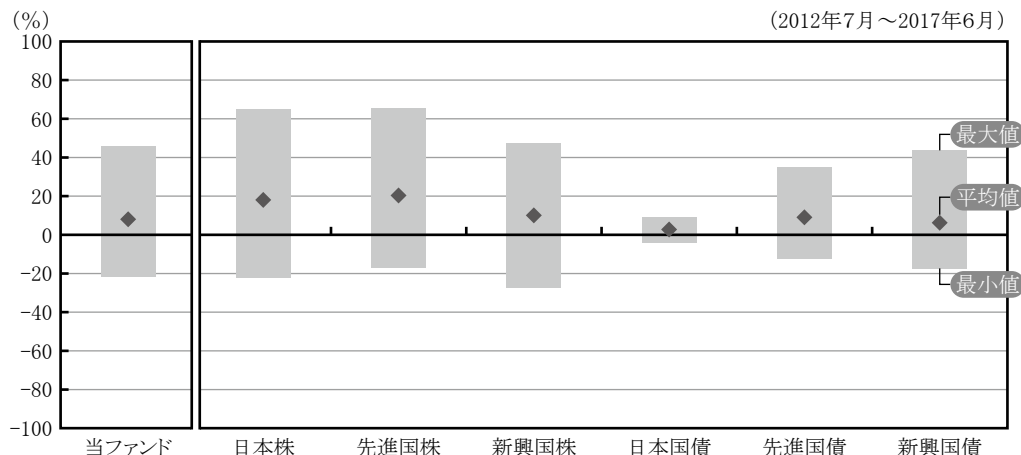
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2014年8月8日から2024年7月29日まで	
運用方針	イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の金融商品取引所に上場されている(上場予定を含みます。)中小型株に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指した運用を行います。	
主要投資対象	イーストスプリング・ジャパン中小型厳選バリュー株ファンド	イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている(上場予定を含みます。)中小型株を主要投資対象とします。
運用方法	イーストスプリング・ジャパン中小型厳選バリュー株ファンド	以下の投資制限のもと運用を行います。 <ul style="list-style-type: none">・株式への実質投資割合には、制限を設けません。・同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。・外貨建資産への投資は、行いません。
	イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド	以下の投資制限のもと運用を行います。 <ul style="list-style-type: none">・株式への投資割合には、制限を設けません。・同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。・外貨建資産への投資は、行いません。
分配方針	毎決算時(毎年7月27日。休業日の場合は翌営業日。)に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	8.0	18.0	20.3	10.0	2.7	9.0	6.2
最大値	45.7	65.0	65.6	47.3	9.3	34.9	43.7
最小値	-21.4	-22.0	-17.1	-27.5	-4.0	-12.3	-17.4

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2012年7月から2017年6月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※当ファンドは2014年8月8日に設定されたため、ファンドの年間騰落率は2015年8月以降のデータをもとに表示しています。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数(TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

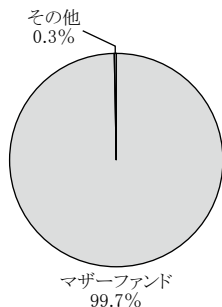
○組入ファンド

(組入銘柄数: 1銘柄)

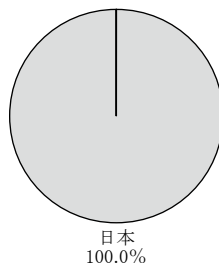
ファンド名	第3期末 2017年7月27日
イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド	99.7%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

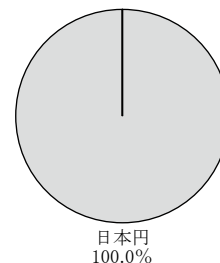
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第3期末 2017年7月27日
純資産総額	7,430,700,395円
受益権総口数	4,768,631,280口
1万口当たり基準価額	15,582円

* 当期中において追加設定元本額は780,209,829円、一部解約元本額は7,962,392,250円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド

○基準価額の推移

(2016年7月28日～2017年7月27日)

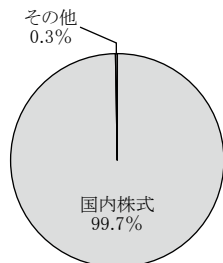


○組入上位10銘柄 (組入銘柄数: 44銘柄)

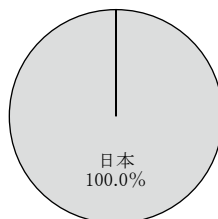
(2017年7月27日現在)

	銘柄名	業種	市場	比率
1	東京TYフィナンシャルグループ	銀行業	東証一部	4.0%
2	商船三井	海運業	東証一部	3.4%
3	クレディセゾン	その他金融業	東証一部	3.4%
4	栗田工業	機械	東証一部	3.3%
5	レオパレス21	不動産業	東証一部	3.2%
6	コメリ	小売業	東証一部	3.2%
7	リケン	機械	東証一部	3.1%
8	野村不動産ホールディングス	不動産業	東証一部	3.0%
9	沖電気工業	電気機器	東証一部	3.0%
10	JSR	化学	東証一部	3.0%

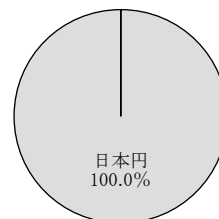
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注)組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

○1万口当たりの費用明細

項目	当期 2016/7/28～ 2017/7/27		項目の概要
	金額	比率	
(a) 売買委託手数料 (株式)	24円 (24)	0.168% (0.168)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 期中の平均基準価額は、14,126円です。 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 余資運用に係る費用（マイナス金利相当額）
合計	24	0.168	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
- シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。